

通所リハ(認知症)

家事や畑作業を再開し、介護負担が軽減した認知症事例

年齢:77歳 性別:女性 疾患名:脳血管性認知症・変形性膝関節症

要介護2 ⇒ 要介護1

通所リハ事例

**【介入までの経緯】**脳梗塞発症から6週間の入院を経て自宅退院となった。入浴とリハビリ目的で通所リハ週3回、機能回復訓練、A DL・IADL訓練などの活動を促した。病前は家事と農業を行い、楽しみとして収穫物を農産物市で売っていた。病気後は軽度認知症の影響もあり主体的な生活が遅れず、常に助言や誘導を要し、夜間覚醒など、夫の介護負担となっていた。  
**【本人・家族の生活の目標】**(本人)以前のように自分で野菜を作り、収穫物を「農産物市」に出したい。(家族)夜間寝てほしい。屋外を安定して歩けるようになってほしい。

	利用開始時	中間(1ヶ月後)	修了(2ヶ月後)
ADL・IADLの状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○更衣や整容は助言、入浴は部分介助を要する。</li> <li>○家事は促しや助言が必要であり、自分からは行わない。</li> <li>○昼夜逆転傾向にあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入浴は見守りで可能となり、洗濯物をたたむ、食器洗い、台拭きなどが見守りでできるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入浴は口頭での促しでできるようになり、自宅でも入浴している。</li> <li>○洗濯と食事の片付けは夫と共に行うようになった。</li> <li>○通所日の夜は覚醒なく朝まで眠れる。</li> </ul>
生活行為の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○畑まで歩いて行き、除草作業などの簡単な畑仕事ができる。</li> <li>○夫の送迎と付添により農産物市に参加する。</li> <li>○夜間覚醒なく眠れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歩行器のレンタル開始、屋外歩行練習や除草作業の模擬動作の反復により通所時の活動量が増加した。</li> <li>○個別リハに積極的になる。</li> </ul>	<p><b>【考察】</b> 認知症者は、生活行為に対する主体性などの低下も認められるため、なじみ深い作業などの介入が有効である。本事例では長年の楽しみであった農作業や家庭内役割であった家事を再開することで精神面での活性化が図られ、生活リズムを取り戻すことができた。</p>
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○低い台からの立ち上りなど屋外農作業に必要な機能訓練と動作練習。</li> <li>○歩行器の操作練習と歩行耐久性訓練を行う。活動量増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夫に対して活動能力の改善を説明し、家庭での家事や屋外歩行の付き添いに理解を求める。</li> <li>○CMIに歩行器の貸与手続きを要請。</li> </ul>	



**結果** : 日中の活動量が増加し、夜間の覚醒がなくなった。また、夫の付き添いで農産物市に参加することができた。

**課題** : 生活行為の課題を解決するためには、20分1単位では十分な関わりがもてない。